

令和7年度学校評価報告書

令和8年（2026年）3月26日

北海道教育委員会教育長 様

北海道深川西高等学校長 柴 山 真 純

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) あらゆる教育活動を通じた自主・自律・自治の精神を有する生徒の育成
- (2) 共通理解に基づく全教職員の連携・協働による組織的・系統的な取組
- (3) 地域との連携による地域の特性や教育資源を活かした教育活動の推進

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程	生徒や保護者、地域の要望を踏まえた適切な教育課程が編成されている。今後は地域連携をすすめ探究活動の改善を図り、委員会を中心に充実した探究活動を実現していく。	教育課程の編成・実施について、適切に行っていると評価する。 保護者・生徒の多様なニーズを踏まえ、生徒の自主性を伸ばす指導に期待したい。
改善方策	生徒・保護者・地域の多様なニーズを踏まえ、教育課程を見直し、充実した教育課程の編成を進めていく。	
学習指導	授業研究の期間について、地域とも連携し、異校種間との接続・連携し、充実したものとなるよう互いに参観し研修を進めた。 多様な価値観、多様は範囲のニーズに合わせた個別最適な学びと対話的な学びを通じて、自他が協働で学び合い、共に伸ばしようとする風土が育成されつつある。	現在は、ICTの活用及びその他の媒体とのバランスも求められる。教員の業務効率に向けた使い方についても、さらなる向上を期待したい。 学校の広報と合わせて、生徒の自己肯定感を上げられるよう、学習活動の成果について、地域への発信を続けてほしい。
改善方策	次年度もさらに授業研究の期間に限らず、工夫・改善を加え、教員相互に高め合う仕組みを作りたい。また、授業にかかる研修についてもさらに充実させていきたい。	
生徒指導	年度末評価会議において、本校生徒の身だしなみ指導が課題となった。次年度は分掌を中心とした全職員による共通理解のもと、系統的な取組を進めていく。	性自認など多様な生徒も含め総括的な身だしなみ指導は難しさもあると思う。生徒の自主性を育てる指導や日常生活の基本となる部分への指導を期待したい。
改善方策	全職員が共通理解に基づき、組織的・系統的に対応していく。分掌・委員会を中心とした教育相談、配慮に関する企画・立案を行い、情報を全体で共有し推進していく。	
進路指導	入学する生徒の進路希望が多様になってきていることを踏まえ、進学指導だけではなく、就職指導についても教職員全体で研究し、生徒の要望に多面的に対応していく。進路講習や様々なキャリア形成に向けた体験の機会の充実を図っていききたい。	就職希望100%内定は、生徒の個性の伸長に向けて、一人一人と向き合った成果と言える。予測不能な時台故に、場合に応じた指導が求められている。卒業する18歳という年齢は成人となる年齢なので、地域の中における自分を見つめ直す等、自らの進路を主体的に考える自主性を育てていただきたい。
改善方策	これまでの学年判断に任せる部分が大きかったが、次年度からはより進路指導部が中心となり、卒業までの系統立てた指導計画に基づき進めていく。	
健康・安全指導	本校ではいじめ防止対策委員会を中心に、年4回アンケート調査を実施し、未然防止に向けて積極的に対応している。その都度委員会を開催し、生徒への対応は組織的に行った。次年度も引き続き、丁寧に対応していききたい。	適切に対応されていると評価する。今後も生徒に寄り添った指導を期待したい。 心身の健康の向上への自立する指導を期待する。
改善方策	委員会や分掌を中心とした組織的な対応を進めていく。また、スクールカウンセラーなど外部の専門家との連携を深め、生徒に寄り添った指導を進めていく。	
公表方法	ホームページへの掲載。PTA理事会、総会等での公表。	

3 添付資料

令和7年度 学校評価アンケート集計表（生徒・保護者・教職員）、自己評価書、学校関係者評価書